

# DI ニュース

( Drug Information News )  
 NO. 267  
 2007年3月  
 徳山医師会病院 薬局  
 TEL: 0834-31-7716  
 FAX: 0834-32-5349  
 e-mail: yaku@tokuyamaishikai.com

薬局ホームページアドレス <http://www.tokuyamaishikai.com/yaku/index.htm>

## 1. お知らせ

バルトレックス錠 ( GSK ) の用法及び用量に関連する使用上の注意が一部変更、追加されました。  
 ( 二重線削除部分、下線部追記・変更箇所 )

～旧 用法及び用量に関連する使用上の注意～

1. 免疫正常患者において、性器ヘルペスの再発抑制に本剤を使用している際に再発が認められた場合には、1回500mg1日1回投与 ( 性器ヘルペスの再発抑制に対する用法・用量 ) から1回500mg1日2回投与 ( 単純疱疹の治療に対する用法・用量 ) に変更すること。治癒後は必要に応じ1回500mg1日1回投与 ( 性器ヘルペスの再発抑制に対する用法・用量 ) の再開を考慮すること。また、再発抑制に対して本剤を投与しているにもかかわらず頻回に再発を繰り返すような患者に対しては、症状に応じて1回250mg1日2回又は1回1000mg1日1回投与に変更することを考慮すること ( 「臨床成績」の項参照 ) 。
2. 腎障害のある患者又は腎機能の低下している患者、高齢者では、精神神経系の副作用があらわれやすいので、投与間隔を延長するなど注意すること。なお、本剤の投与間隔の目安は下表のとおりである注)。  
 ( 「慎重投与」、「重要な基本的注意」、「高齢者への投与」、「過量投与」及び「薬物動態」の項参照 )

	クレアチニン クリアランス (mL/min)	バラシクロピルの投与量
単純疱疹	15	1回500mgを1日2回
	< 15	1回500mgを1日1回
帯状疱疹	> 30	1回1000mgを1日3回
	15 ~ 30	1回1000mgを1日2回
	< 15	1回1000mgを1日1回
性器ヘルペスの再発抑制	15	1回500mgを1日1回 なお、HIV感染症の成人 (CD4リンパ球数100/mm <sup>3</sup> 以上) には、1回500mgを1日2回
	< 15	1回250mgを1日1回 なお、HIV感染症の成人 (CD4リンパ球数100/mm <sup>3</sup> 以上) には、1回500mgを1日1回

注) 外国人における成績である。なお、表中のクレアチニンクリアランス値は、Mawerらの方法1)を用いて血清クレアチニン値から算出した値である。  
~~血液透析を受けている患者には、上記のクレアチニンクリアランス15mL/min未満の推奨用量を投与すること。また、血液透析日には透析後に投与すること。~~  
 肝障害のある患者でもバラシクロピルは十分にアシクロピルに変換される ( 「薬物動態」の項参照 ) 。  
 なお、肝障害のある患者での臨床使用経験は限られている。



～新 用法及び用量に関連する使用上の注意～

1.省略

2.腎障害のある患者又は腎機能の低下している患者、高齢者では、精神神経系の副作用があらわれやすいので、投与間隔を延長するなど注意すること。なお、本剤の投与量及び投与間隔の目安は下表のとおりである。また、血液透析を受けている患者に対しては、患者の腎機能、体重又は臨床症状に応じ、クレアチニンクリアランス10 mL/min未満の目安よりさらに減量(250mgを24時間毎等)することを考慮すること。また、血液透析日には透析後に投与すること。

(「慎重投与」、「重要な基本的注意」、「高齢者への投与」、「過量投与」及び「薬物動態」の項参照)

	クレアチニンクリアランス (mL/min)			
	50	30～49	10～29	< 10
単純疱疹	500mgを12時間毎	500mgを12時間毎	500mgを24時間毎	500mgを24時間毎
帯状疱疹	1000mgを8時間毎	1000mgを12時間毎	1000mgを24時間毎	500mgを24時間毎
性器ヘルペスの再発抑制	500mgを24時間毎 なお、HIV感染症の成人(CD4リンパ球数100/mm <sup>3</sup> 以上)には、500mgを12時間毎	500mgを24時間毎 なお、HIV感染症の成人(CD4リンパ球数100/mm <sup>3</sup> 以上)には、500mgを12時間毎	250mgを24時間毎 なお、HIV感染症の成人(CD4リンパ球数100/mm <sup>3</sup> 以上)には、500mgを24時間毎	250mgを24時間毎 なお、HIV感染症の成人(CD4リンパ球数100/mm <sup>3</sup> 以上)には、500mgを24時間毎

肝障害のある患者でもバラシクロビルは十分にアシクロビルに変換される(「薬物動態」の項参照)。なお、肝障害のある患者での臨床使用経験は限られている。

サワシリンカプセル250mg(アステラス)の【用法・用量】の中の<胃潰瘍又は十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助>部分が追加及び一部変更されました。

詳細は先月号D I ニュースの<お知らせ>クラリス錠200【用法・用量】変更部分と同内容ですので、そちらをご参照下さい。

ハルシオン錠(ファイザー)の【併用禁忌】が一部変更、追加されています。

(二重線削除部分、下線部追記箇所)

【併用禁忌】 薬剤名等

イミダゾール系抗真菌剤

イトラコナゾール  
(イトリゾール®)

フルコナゾール  
(ジフルカン®)

ホスフルコナゾール  
(プロジフ®)

ポリコナゾール  
(ブイフェンド®)

ミコナゾール  
(フロリード®)

HIVプロテアーゼ阻害剤

インジナビル  
(クリキシバン®)

リトナビル  
(ノービア®) 等

エファビレンツ  
(ストックリン®)

臨床症状・措置方法

本剤の血中濃度が上昇し、作用の増強及び作用時間の延長が起こるおそれがある。

機序・危険因子

本剤とこれらの薬剤の代謝酵素が同じ(CYP3A4)であるため、本剤の代謝が阻害される。

セレネース(大日本住友)の【併用禁忌】変更… エピネフリン アドレナリン(下線部)へ

【併用禁忌】薬剤名等

アドレナリン  
(ボスミン®)

臨床症状・措置方法

アドレナリンの作用を逆転させ、重篤な血圧降下を起こすことがある。

#### 機序・危険因子

アドレナリンはアドレナリン作動性  $\beta_1$ -受容体の刺激剤であり、本剤の  $\beta_2$ -受容体遮断作用により、 $\beta_1$ -受容体刺激作用が優位となり、血圧降下作用が増強される。

タミフル（中外）にインフルエンザ治療開始後の注意事項について通知が出されています。

万が一の事故を防止するための予防的な対応として、特に小児・未成年者については、インフルエンザと診断され治療が開始された後は、タミフルの処方の有無を問わず、異常行動発現のおそれがあることから、自宅において療養を行う場合、

- ① 異常行動の発現のおそれについて説明すること
- ② 少なくとも2日間、保護者等は小児・未成年者が一人にならないよう配慮することが適切であると考えられます。

このため、インフルエンザ治療に携わる医療関係者においては、患者・家族に対し、その旨説明を行っていただきたい。

また、これまでもタミフルの添付文書の警告の欄に「本剤の使用にあたっては、本剤の必要性を慎重に検討すること」と記載し、注意喚起して参りましたが、あらためてご留意くださいますよう、お願い申し上げます。

ウルソ錠（三菱ウェルファーマ）の【効能・効果】、【用法・用量】、効能又は効果に関連する使用上の注意が追加されました。（下線部追記箇所）

#### 【効能・効果】【用法・用量】

- ・ 下記疾患における利胆  
胆道（胆管・胆のう）系疾患及び胆汁うっ滞を伴う肝疾患  
ウルソデオキシコール酸として、通常、成人1回50mgを1日3回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
- ・ 慢性肝疾患における肝機能の改善  
ウルソデオキシコール酸として、通常、成人1回50mgを1日3回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
- ・ 下記疾患における消化不良  
小腸切除後遺症、炎症性小腸疾患  
ウルソデオキシコール酸として、通常、成人1回50mgを1日3回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
- ・ 外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解  
外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解には、ウルソデオキシコール酸として、通常、成人1日600mgを3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。
- ・ 原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善  
原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善には、ウルソデオキシコール酸として、通常、成人1日600mgを3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。増量する場合の1日最大投与量は900mgとする。
- ・ C型慢性肝疾患における肝機能の改善  
C型慢性肝疾患における肝機能の改善には、ウルソデオキシコール酸として、通常、成人1日600mgを3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。増量する場合の1日最大投与量は900mgとする。

～効能又は効果に関連する使用上の注意～

#### 原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善

- ・ 硬変期で高度の黄疸のある患者に投与する場合は、症状が悪化するおそれがあるので慎重に投与すること。血清ビリルビン値の上昇等がみられた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

### C型慢性肝疾患における肝機能の改善

- ・C型慢性肝疾患においては、まずウイルス排除療法を考慮することが望ましい。本薬にはウイルス排除作用はなく、現時点ではC型慢性肝疾患の長期予後に対する肝機能改善の影響は明らかではないため、ウイルス排除のためのインターフェロン治療無効例若しくはインターフェロン治療が適用できない患者に対して本薬の投与を考慮すること。
- ・非代償性肝硬変患者に対する有効性及び安全性は確立していない。高度の黄疸のある患者に投与する場合は、症状が悪化するおそれがあるので慎重に投与すること。血清ビリルビン値の上昇等がみられた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

アダントディスポ（明治）の【効能・効果】、【用法・用量】が追加されました。

（下線部追記箇所）

#### 【効能・効果】 変形性膝関節症、肩関節周囲炎

慢性関節リウマチにおける膝関節痛（下記(1)～(4)の基準を全て満たす場合に限る）

- (1) 抗リウマチ薬等による治療で全身の病勢がコントロールできていても膝関節痛のある場合
- (2) 全身の炎症症状がCRP値として10mg/dL以下の場合
- (3) 膝関節の症状が軽症から中等症の場合
- (4) 膝関節のLarsen X線分類がGrade IからGrade IIIの場合

#### 【用法・用量】 変形性膝関節症、肩関節周囲炎：

通常、成人1回1シリンジを1週間ごとに連続5回膝関節腔内又は肩関節（肩関節腔、肩峰下滑液包又は上腕二頭筋長頭腱腱鞘）内に投与するが、症状により投与回数を適宜増減する。

慢性関節リウマチにおける膝関節痛：

通常、成人1回2.5mLを1週間毎に連続5回膝関節腔内に投与する。

本剤は関節内に投与するので、厳重な無菌的操作のもとに行うこと。

硫酸アトロピン注（扶桑）の【用法・用量】が一部追加されました。（下線部追記箇所）

【用法・用量】 アトロピン硫酸塩水和物として、通常成人0.5mg（本剤1mL）を皮下又は筋肉内に注射する。場合により静脈内に注射することもできる。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

有機燐系殺虫剤中毒の場合には、症状により次のように用いる。

軽症

アトロピン硫酸塩水和物として0.5～1mg（本剤1～2mL）を皮下注射するか、又は0.5～1mg（本剤1～2mL）を経口投与する。

中等症

アトロピン硫酸塩水和物として、1～2mg（本剤2～4mL）を皮下・筋肉内又は静脈内に注射する。必要があれば、その後20～30分毎に繰り返し注射する。

重症

初回アトロピン硫酸塩水和物として、2～4mg（本剤4～8mL）を静脈内に注射し、その後症状に応じてアトロピン飽和の徴候が認められるまで繰り返し注射を行う。

ECTの前投与の場合には、アトロピン硫酸塩水和物として、通常成人1回0.5mg（本剤1mL）を皮下、筋肉内又は静脈内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

## 2. 医薬品・医療用具等安全性情報

(No. 233)2007年2月

厚生労働省医薬食品局

【概要】

### 1. 重要な副作用等に関する情報

#### 【1】リツキシマブ（遺伝子組換え）

当院採用品：なし

販売名：リツキサン注10mg/mL

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

〔警告〕

B型肝炎ウイルスキャリアの患者で、本剤の治療期間中又は治療終了後に、劇症肝炎又は肝炎の増悪、肝不全による死亡例が報告されている（「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項参照）。

〔重要な基本的注意〕

B型肝炎ウイルスキャリアの患者で、本剤の投与により、劇症肝炎又は肝炎が増悪することがあるので、本剤の治療期間中及び治療終了後は継続して肝機能検査値や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合は投与を中止し、直ちに抗ウイルス剤を投与するなど適切な処置を行うこと。なお、投与開始前にHBs抗原陰性の患者において、B型肝炎ウイルスによる劇症肝炎を発症し、死亡に至った症例が報告されている（「重大な副作用」の項参照）。

本剤の治療中より末梢血リンパ球の減少があらわれ、治療終了後も持続すること、また免疫グロブリンが減少した例が報告されていることなど、免疫抑制作用により細菌やウイルスによる感染症が生じる又は悪化する可能性があるため、患者の状態を十分に観察すること。感染症が生じた場合は適切な治療を行うこと。

〔副作用（重大な副作用）〕

B型肝炎ウイルスによる劇症肝炎、肝炎の増悪：B型肝炎ウイルスによる劇症肝炎又は肝炎の増悪による肝不全があらわれることがあるので、肝機能検査値や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど患者の状態を十分に観察すること（「重要な基本的注意」の項参照）。

肝機能障害、黄疸：AST（GOT）、ALT（GPT）、AI-P、総ビリルビン等の肝機能検査値の上昇を伴う肝機能障害や黄疸があらわれることがあるので、肝機能検査を行うなど患者の状態を十分に観察すること。異常が認められた場合は投与を中止し、適切な処置を行うこと。

消化管穿孔：消化管穿孔があらわれることがあるので、消化管穿孔の初期症状としての腹痛、腹部膨満感、下血、吐血、貧血等の観察を十分に行い、異常が認められた場合は、直ちにX線、CT検査等を実施して出血部位、穿孔所見の有無を確認し、適切な処置を行うこと。

【2】塩酸セフカペンピボキシル

当院採用品：フロモックス錠100mg

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

〔副作用（重大な副作用）〕

劇症肝炎、肝機能障害、黄疸：劇症肝炎等の重篤な肝炎、AST（GOT）、ALT（GPT）、AI-P等の上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

【3】女神散

当院採用品：なし

販売名：ツムラ女神散エキス顆粒（医療用）

《使用上の注意（下線部追加改訂部分）》

〔副作用（重大な副作用）〕

肝機能障害、黄疸：AST（GOT）、ALT（GPT）、AI-P、 $\gamma$ -GTP等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

## 3 . Q & A コーナー

ベイスン（0.2）錠を1日6錠投与してよいか？

ベイスンの最高投与量は0.9mgまでなので、保険で切られる可能性が大きい。

増量により効果はあがるが、消化器症状の副作用が増強する可能性あり。

ペルサンチン錠服用患者で、手術をする時はいつから休薬すべきか？

大手術・出血多量と予測される場合は2日前より休薬。小手術ではリスクを考えると飲んだ方がよい。（文献はなし）

カロナールの小児用量は？  
10～15mg/kg 1日2回まで。

アクトス錠とインスリンは併用OKか？  
併用注意だが、禁忌ではない。

コントミン錠とセレネース錠の等力価量は？  
向精神病作用・・・コントミン錠50mg = セレネース錠1mg

エスポー皮下注は、皮下ならどの部位に注射してもよいか？  
OK。(腕、腹、尻、大腿部など)

フサン注は投与期間の縛りがあるか？  
2週間をめぐり、2週間を超える場合でも、患者の状態をちゃんとみながら、途中で量の増減が見られる時は保険で切られないかもしれない。  
膵炎でFOY注を使用するときは、食事が出ていたりすると、注射の必要性がないとみられ、保険で切られることが多い。(膵炎では絶飲食が基本の為)

## 4 . 甜茶 (てんちゃ)

甜茶は、今シーズン中の花粉症にも効果があるとされているお茶です。今回は甜茶について紹介してみたいと思います。

甜茶は、中国南西部の山岳地帯に生息するバラ科の植物です。正式名称を甜葉懸鉤子(てんようけんこうし)といいます。甜茶の葉には、甜茶ポリフェノール、ルブソサイドをはじめカリウム、カルシウム、マグネシウム、亜鉛、鉄などのミネラルが含まれます。葉に甘味があるのが特徴で、これはルブソサイドという甘味成分が関係しています。

甜茶に含まれるポリフェノールには、抗アレルギー効果があるとして注目されています。アレルギーは、体内に備わっている免疫機能が異物に過剰反応し、抗体ができることによって起こります。例えば花粉などの異物が侵入すると、Bリンパ球でIgE抗体が作られ、肥満細胞に付着します。その後再び花粉が体内に侵入すると、IgE抗体が抗原成分をキャッチして肥満細胞に伝えます。肥満細胞はこれを排除しようとしてヒスタミンなどの化学物質を放出し、これらの化学物質が過剰に血管や神経を刺激することで、くしゃみや鼻水、目のかゆみなどのアレルギー症状を引き起こしてしまいます。

甜茶には、ヒスタミンなどの化学物質が放出されるのを阻害する成分が含まれていますが、その働きをしているのが甜茶ポリフェノールです。花粉症のほかにもアレルギー性鼻炎などにも効果があり、しかも抗アレルギー剤や抗ヒスタミン剤を服用することであらわれる眠気などの副作用がありません。

さらに甜茶ポリフェノールには、体内で糖質分解酵素を抑制する働きがあり、食後の急激な血糖値の上昇を抑える効果が期待できます。そのため、インスリンの過剰分泌も抑えられるので、糖尿病や高血圧予防にもつながります。ほかにも歯周病の予防や歯周病に伴う口臭予防にも効果があるようです。

### 注意点

甜茶は「甘いお茶」を意味し、アカネ科、ユキノシタ科、ブナ科のものもあります。しかし甜茶ポリフェノールを含むのはバラ科の「甜葉懸鉤子」だけなので注意が必要です。

### 摂取方法

花粉症対策には、花粉が飛ぶ2週間～1カ月前くらいから飲み始めると効果的なようです。抗アレルギー効果を得るためには、甜茶エキスとして1日120mg程度が必要といわれています。目安としては、甜茶2～3gを熱湯500mlに入れて2～3分煮立てます。食間や寝る前に飲むと効果的です。

参照：日本サプリメント協会資料